

草加市倫理法人会(9月) モーニングセミナー報告

自分が変わる。
会社が良くなる。
不況に負けない。

九月三日(木) 第九一六回

- ◇・講師 清水 良朗 埼玉県倫理法人会 相談役 (株) 鯉平 代表取締役
- ◇・テーマ 「宗教の話をしよう!」



倫理を正しく学ぶために宗教との違いを理解してほしい。丸山敏雄創始者は教職に就いており、当時クリスチャンの学生に国体(天皇を中心とした秩序)が伝わらないのはなぜかと考え、復学して学び、自らもひとつのみち教団(後のPL教)に入信する。百万人の信者が戦争に反対したため、創始者も検挙、投獄される。戦後、教団は復活するが宗教では幸せになれない、生活の実践により人は幸せになれると考えるようになる。宗教では個人と神が直接契約を交わす。個人と神の間に親を通すのが倫理の考え方である。宗教では現世が不幸でも死後は救われると説いた。新しい宗教では現世でも幸せになつてよいと説いた。輝かしい一生を生きて、死んだ時皆は泣いている。自分は笑っている。そんなふう

大井 直人 記

九月十日(木) 第九一七回

- ◇・講師 新井 美智子 狭山市倫理法人会 幹事 ジャパントータルビューティシステム(株) 取締役社長
- ◇・テーマ 「活力朝礼コンクールに参加して」



十九年前、飯能市倫理法人会に入会する。会社でも始業一時間前から清掃をする。社員から嫌味を言われたりもしたが、継続していくうちに社員の気持ちも変わっていった。今では数名の社員とモーニングセミナーに出席している。朝礼コンクールに出場することになり、なかば強引に練習を始めたが、社員はやらされている状態だった。その時は自分の傲慢さ愚かさ気がつかなかった。社員の一人が「もうやめません」と言ってきた。自分の心を入れ替え、自分を変えると、その社員が「早朝練習しませんか」と提案してきた。コンクールを通して自分が成長できた。当日は舞台上で一体感を感じる事ができ、最優秀賞を頂いた。良いことも悪いことも受け入れることができるようになったことに大変感謝しています。



大井 直人 記

九月十七日(木) 第九一八回

- ◇・講師 藤本 定明 (一社) 倫理研究所 法人アドバイザー (株) ゲンキの平和堂 取締役BOSS
- ◇・テーマ 「白いカラスと隣の女房」



昭和四十三年に電化製品の販売で独立。物事を人に伝えるのは難しい。伝えるのが大事ではなく、どのように相手に伝わったかが大切である。木の剪定を頼んだはずなのに、根元から伐採された経験がある。三十年前に滝口長太郎氏と出会い、「大自然に沿った経営を守れば幸せになり、外れると不幸になる」これは絶対である事を教わる。倫理法人会に入会し、すぐに倫理指導を受けた。お金を払う時には感謝して、きれいに支払う事。指導を受ける心構えは「そうだよね」と実践することである。倫理は夫婦道からきている。お金を貸す条件は、①夫婦仲が良いか ②子供がぐれていないか ③玄関先がきれいか である。何事も妻に相談していただきますか? 妻が進める事に大失敗はない。妻の話にハイとすること。身内が賛成できないことに他人が協力するわけがない。自然の法則に従えば幸せになれる。

遠藤 広伸 記

九月二十四日(木) 第九一九回

- ◇・講師 久慈 須美子 埼玉県倫理法人会 副会長 (株) マイカー三喜 代表取締役
- ◇・テーマ 「人生神劇」



昭和二十年、東京の大塚に五人兄弟の末っ子として生まれる。昭和四十五年に結婚。二人の男子を授かる。昭和四十八年、脱サラの夫とともに朝霞市に中古車センターを開業する。そして人生最大の試練が訪れる。昭和五十年に夫が亡くなる。二人の子供を抱えてその子供たちのために懸命に生活した。あるとき次男に「死にたいと思った事はある?」と聞かれ「思った事はあるが結婚し、子供たちが生まれた時は生きていてよかったですよ」と伝えた。平成二十年、倫理法人会に入会し、どんどん倫理にはまり、沢山の人と出会い、世界が広がった。笑えるようになった。仕事も倫理も遊びも全て一生懸命。倫理はわがままを取ることで。お互い実践して、ずっと勉強していきます。



大井 直人 記